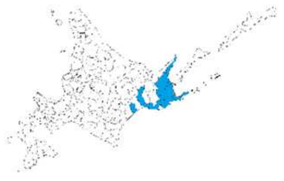
ＪＲ花咲線調査・実証事業協議会

令和５年６月20日設置



概　　要

JR北海道花咲線は、根室線のうちの釧路駅～根室駅間 の愛称名であり、18駅（うち有人駅　釧路駅・厚岸駅・根室駅）、135.4kmの路線で、釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・根室市の２市3町にわたる路線である。

○JR北海道花咲線の輸送密度及び収支（令和５年度）

- 輸送密度　２２１人／日
- 営業損益　▲１，３０２百万円

○JR北海道花咲線の課題

- 国からの監督命令「JR北海道の経営改善に向けた取組」
- 観光線区としての線区特性の発揮
- 線区の収支改善

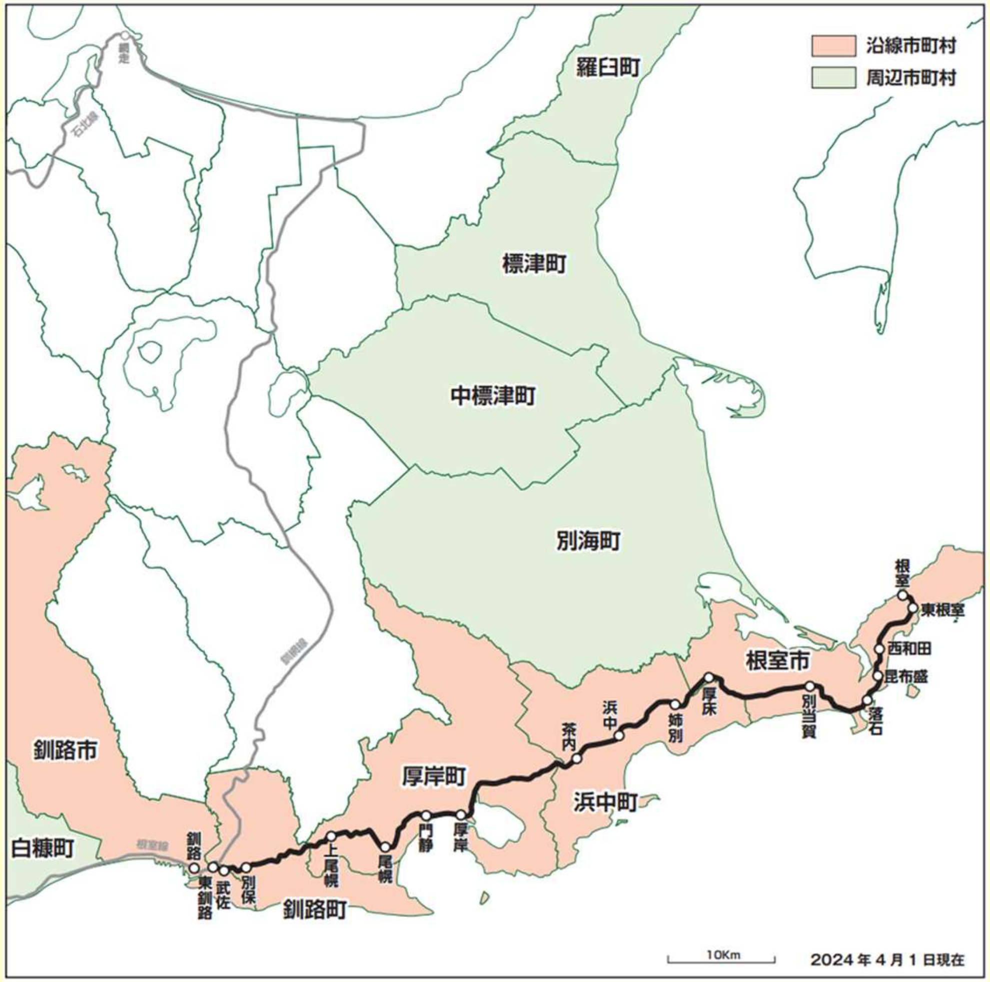
○地域公共交通再構築調査事業の主な内容

- 落石駅~根室駅バス実証運行
- 地球探索鉄道花咲線増結と景色の良い海側に指定席導入

○JR花咲線調査・実証事業協議会開催状況

令和６年12月24日（火） 第1回協議会（書面開催）
- 規約、役員、事業案、予算案

JR北海道花咲線概要



ＪＲ花咲線調査・実証事業協議会　地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の結果概要 ①

1．落石駅～根室駅バス実証運行

・4/8～3/21の年末年始除く毎日運行。
・根室高校前や病院に停車

○運行日　：4月8日（月）～3月21日（金）

○運行便　：① 7：10 落石発（12/1長節停留所移設に伴い10分繰上げ）
②13：00 根室発（水曜日のみ）、
③16：15 根室発

○目標　：平日平均30人

○実績　：※4月～11月までの実績
①乗降者数3,345人、1日平均13.7人、平日平均20.3人
②乗降者数　　36人、1日平均　1.0人
③乗降者数1,223人、1日平均　5.0人

実証バスルート

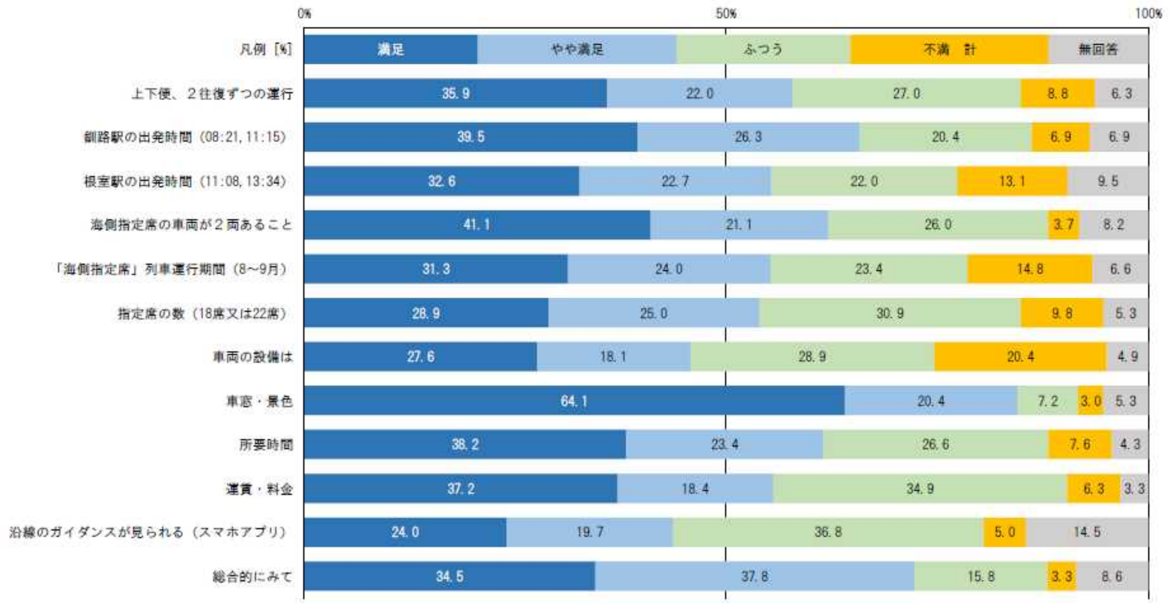
根室高校前実証バス

・通学生約25人は往路はほぼ全員がバス利用に転移した。
・①便では、平日は通学利用で、20～30人の利用（休校日を除いた１日平均24.4人）であるが、土日祝は利用が低調である。
・③便は、他の交通手段に分散している。
・12月1日より、長節停留所の移設により利便性向上が図られ、①便の利用が増加傾向にある。また、③便についても利用者の意見を聞きながら16:00発を16:15発に調整した。
・②便及び土日祝の運行は、利用が低調であり、地域住民との意見交換を実施（12月9日開催）しながら検討している。

●事業の結果概要 ②

2．増結と海側座席指定席発売
- ４便（２往復）に１両増結、増結車両の海側座席を指定席として発売
- 午前２便（1往復）はテーブル付き座席で快適性を向上

○運行日　：8月1日（木） ～ 9月30日（月）
○目標　　：指定席発売17席/便、乗車人員４人増/便/日（昨年度指定席を設置した列車２便の乗車人員と今回指定席を設置した同じ２便とを比較して乗車人員４人増という目標）
○実績　　：指定席　　12席/便（目標未達成）
　　　　　：乗車人員　0.4人増/便/日（目標未達成）
　　　　　<昨年度増結実施４便比較>
　　　　　　乗車人員＋900人、指定席発売数＋1,400席
○調査結果：調査回答数1,285名（304名分無作為抽出）



- 総合的に満足+やや満足の高評価が約7割。
- 評価が最も高いのは「景色・車窓」の満足度で高評価が8割。
- 花咲線に指定席があれば今後も利用するとの回答は8割近く、設備・サービスが良ければもっと値上げしてよいとの回答も2割ある。

●事業の今後の改善点（特記事項含む）

1. 落石駅～根室駅バス実証運行
   - ・地域との意見交換を踏まえながら、運行便、運行時刻、運行ルート等を調整し、利用しやすい路線となるよう継続的な取組を検討。
2. 増結と海側座席指定席発売
   - ・一定の効果があることが確認。
   - ・運行期間の前倒しやプロモーションを強化した利用促進策を検討。

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は計画どおりに実施されている。
・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
・増結と海側座席指定席発売については、目標値は達成できなかったものの、指定席発売数は大幅に増加しており、観光線区としての特性に留意した利用促進等の取組の更なる推進に期待する。
・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。